

令和 3 年 6 月 24 日現在

機関番号：12102

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2020

課題番号：19K23353

研究課題名（和文）自由ヴァルドルフ学校における造形教育の世界的展開に関する研究

研究課題名（英文）Research for the global expansion of art education in the waldorf schools

研究代表者

吉田 奈穂子（YOSHIDA, Nahoko）

筑波大学・芸術系・助教

研究者番号：80844711

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：自由ヴァルドルフ学校連盟によって共通のカリキュラムが公開されているが、具体的な教育内容の記載は少ない。そこで、本研究は、各国の自由ヴァルドルフ学校における造形活動のカリキュラムと教育内容を明らかにし、それらを比較分析することで、各国の自由ヴァルドルフ学校における造形教育の独自性を解明することを目的とした。

その結果、シュタイナーの理念を基盤にしつつ、各国で「つくり変える」ことを容認されていることが確認できた。東アジア地域においては、欧米と同じまたは類似した実践も見られたが、各国の文化、伝統工芸、歴史などをテーマにした造形活動が展開されていることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

自由ヴァルドルフ学校の世界的展開に関して、造形教育の分野から明らかにした。教育実践に基づく自由ヴァルドルフ学校の造形教育の実践と現状を明らかにするという研究課題の達成により、日本の公教育における一教科としての造形教育に、教科連携を担うという新たな価値づけをする。さらに言えば、本研究は、公教育における造形的な活動を通じた各教科の学習内容を統合、活用する学習の提案が可能であり、新学習指導要領が目指す主体的で対話的な深い学びの実現の一助になりうるということが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：Although Waldorf education comprises an outline of the curriculum generally organized by the Association of Waldorf Schools, no specific educational contents are formulated. Hence, there may be differences in curricula and contents between each country's Free Waldorf schools. Therefore, this study aimed to compare the curricula and contents in each country's Free Waldorf schools and to clarify their uniqueness, focusing on art education. The data were collected through a field survey and interviews with teachers at Free Waldorf Schools in Europe and East Asia.

The results showed that the curricula and educational contents in each country were arranged based on Rudolf Steiner's theory. Each country's art education had developed independently and their uniqueness in subject matters depended on their own culture, traditional crafts, history, and materials often used in each country.

研究分野：教科教育学

キーワード：ヴァルドルフ教育 自由ヴァルドルフ学校 国際比較 シュタイナー学校 造形教育 カリキュラム

1. 研究開始当初の背景

文字通り「教える」ことを職業とする教員は、高度専門職業人と言われている。それは子ども一人一人に対する教え方や育て方は百人百様であり、学校における子どもの人間形成に関しては、複雑で多層的で総合的な視点で見ることが欠かせないからである。しかしながら、現在の学校教育における教科教育に見られるように、教育は部分的・要素的に取り扱われ、教育を全体から見る視点が欠けている。その結果、感性や情操など人間形成において重要な役割を担う図画工作科や美術科などの造形教育は、学力診断や受験教科に入らないために軽視される傾向にある。しかし、「美しい数式」「美文字」「美しい心」「美しい身体」などという言葉があるように、図画工作科や美術科などの造形教育に限らず、「美」という概念は私たちの周りのあらゆるところに存在し、人間の生き方や規範的なものにもなっている。つまり、学校教育においては、教育全体でその「美」の基礎を培わなければならないはずであるが、実際は学力などの「知」の教育はもちろんのこと、近年「徳」や「体」の教育の重要性は叫ばれているものの、「美」の教育は人間形成上の意味を意識されることなく隅に追いやられ、感性や感覚の教育が人間形成や学校教育には十分に組み込まれていない。その「美」の教育の不十分さは、直接的ではなくても、根底において、いじめ問題や不登校問題などの子供の人間性の問題に影響を与えているのではないだろうか。

一方で本研究が取りあげる、人間やそれを取り巻く環境など、全体を捉え、芸術を知徳体の育成とともに総合的にアプローチする自由ヴァルドルフ学校(シュタイナー学校)の理論と実践は、混迷する日本の教育に示唆を与えうるものである。とりわけ、造形教育を知徳体の教育全体に浸透させているこの学校の理論や実践は、時代や社会、文化の相違を越えて、日本の造形教育の現状に根本的な発想の転換を迫り、飛躍的な発展に寄与できるものを包含していると考えられる。そのため、自由ヴァルドルフ学校における造形教育の実際と本質は何かということが、報告者が考える本研究課題の核心をなす問いであり、本研究の着想に至った背景である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、自由ヴァルドルフ学校における造形教育に着目し、そのカリキュラムと具体的な造形教育の内容を国内外の学校の比較分析から、造形教育の本質と各国における造形教育の独自性と展開を解明することである。

報告者は、大学の修士課程在籍時、2014年からドイツニュルンベルク自由ヴァルドルフ学校の教員養成課程に通い、2015年に学級担任教師の教員資格を取得し修了した。これまで多くの研究者は創始者ルドルフ・シュタイナー(1861-1925)による著書や学校が出版した学校誌、学校の訪問による研究を行ってきたが、報告者は教育現場へ入ることでその思想や理念の理解に努め、普段の授業の様子を長期にわたり参与観察してきた。幼稚園から高等学校に至るまでの日本の教員免許状と、自由ヴァルドルフ学校の教員免許を取得している報告者による教員と研究者の両視点から、シュタイナーの著作だけではなく、その教育が実際に行われている学校の「生の授業」に基づいて行われる、理論と実践の両側面からの研究である点が本研究の独自性である。また、約100年間に世界に広がり展開している自由ヴァルドルフ学校の実態、造形教育の教育内容の内実を把握するためには、横断的な研究が必要であるが、未だ国内外で取り組まれていない研究であるという点も本研究の独自性と言える。

つまり、この研究によって教育実践に基づく自由ヴァルドルフ学校の造形教育の教育実践と現状が明らかにされるという研究課題の達成から、今後の日本の公教育に対する示唆を与える。

3. 研究の方法

本研究では、まず、国内における自由ヴァルドルフ学校の動向を調査しながら、学校の発祥地であるドイツ国内の自由ヴァルドルフ学校において、どの程度カリキュラムや造形的な活動の展開に差異が見られるのかを明らかにする。教員や生徒へ聞き取りを行うことでドイツ国内の共通カリキュラムや授業開発の自由度を調査する。

次に、ドイツ周辺各国の自由ヴァルドルフ学校における造形教育のカリキュラムや教育内容の比較から、欧州のヴァルドルフ教育の展開とその現状を概観する。その学校のカリキュラムや造形的な活動の教育内容に、各国の公教育、伝統や文化、言語、風土などに影響を受けた題材の有無を調査する。博士論文で取り扱った中国や台湾、韓国の東アジア地域の学校についても継続的に調査し、比較的成熟した欧州の学校と、発達途上の東アジア地域の学校における造形教育の比較から、自由ヴァルドルフ学校の世界展開の現状を把握し、各国の文化や伝統が反映された造形教育の内容から各学校における造形教育の特色を見出す。

さらに、これらの調査に加え、シュタイナーの著書や関連著書、世界中の自由ヴァルドルフ学校に関する論文や校内誌などから、シュタイナーの思想や理念との関係を検討する。

以上の研究方法によって、本研究の目的を達成する。

4. 研究成果

(1) 国内における自由ヴァルドルフ学校の動向

2019 年は自由ヴァルドルフ学校の 100 周年記念の節目の年であったため、国内外の自由ヴァルドルフ学校で、数多くの講演会や教育方法を紹介する展示などのプレ企画が企画された。京田辺シュタイナー学校の会場には、国内の自由ヴァルドルフ学校を紹介するパネルが用意され、各学校でどのような教育が行われているのかが紹介されていた。また、教育内容を知る手がかりとなる資料や校内の関係者向けの冊子(非売品)などを手に入れることができた。国内における調査により、同じ日本国内の自由ヴァルドルフ学校では、創始者シュタイナーの思想に基づいた教育が行われているが、学校のある地域の祭りや伝統舞踊などが学習の中に取り入れられおり、学校のある場所や地域や風土、文化や歴史などを取り入れた教育が行われていることを確認することができた。

2019 年 8 月には東京都渋谷区で 3 日にわたり、「世界がかわる学び」という 100 周年の記念式典が開催された。各学校の教師が大人向けの授業体験や、研究者や卒業生らによる講演会が行われ、今後のヴァルドルフ教育のあり方について参加者が共有するものであった。学校の保護者も多く参加していたが、そのうち外部からの参加者に話をしたところ、入学を考えている保護者の他、教育方法に興味があって参加した公立学校の教員もおり、国内におけるヴァルドルフ教育の関心の高さを垣間見ることができた。

自由ヴァルドルフ学校連盟に登録されている国内の学校は 7 校であり、幼稚園は 14 校である。日本で最初に開校した学校をルーツとする、神奈川県自由ヴァルドルフ学校の造形教育のカリキュラムについては 2020 年に関西外国語大学『研究論集』第 111 巻でまとめ、日本国内の複数の学校における造形教育のカリキュラムを著書『シュタイナー学校における造形教育の実践 日本の公立小学校の図画工作科への導入をさぐる』の第 3 章にまとめた。

以上の研究に関連して、学校教育段階に入る前の未就学児にはどのような造形活動が行われているのか、そのカリキュラムの連続性を明らかにするために調査を行った。実地調査をした未就学児の保育施設は 2 か所で、1 か所は連盟のリストにも掲載されているヴァルドルフ子ども園で、もう 1 か所は連盟の公式リストには掲載されていないが、ヴァルドルフ教育の実践を謳っている保育施設である。

実地調査先のうち、前者の子ども園は、3~5 歳の保育を中心に行っている施設である。(実地調査後、乳児の受け入れ開始)住宅街の一角に位置する子ども園であったが、すぐ近くに大きな公園があり、自然豊かな環境下で保育が行われていた。実地調査と保育士への聞き取り調査から、3 歳以上の保育の中では、粘土や蜜蝋クレヨンを使った描画活動、にじみ絵など、ヴァルドルフ教育を代表する造形活動が子ども園でも行われていることが明らかになった。その中でも毎週月曜日の朝繰り返し行われているのが、水でぬらした画用紙に水彩絵の具で絵を描く、にじみ絵であった。参与観察では、机の上に置かれた絵の具を使って子どもたちは保育士によってテーマを定められたり、描くものを誘導されたりすることはなく、自由に自分の描きたいように自分の意思に従って筆を動かして絵を描く様子を見ることができた。単色から徐々に 2 色、3 色と色が増えていくという 1 年間のカリキュラムが毎年繰り返されていることが実地調査と聞き取り調査により明らかになった。

後者は、0~2 歳を対象とする保育施設である。多角形の天井の形や木や布を使ったおもちゃや遊びなどは、一般的なヴァルドルフ幼稚園と同様の遊具が置かれていた。保育士への聞き取り調査と参与観察によれば、ヴァルドルフ教育を代表するような絵の具やクレヨンを使った造形活動は行われておらず、散歩で体を動かすなど身体の育成に重点を置いた保育を行っているということであった。室内での遊び、外遊び、そして毎日の生活のルーティーンを通して生活リズムを学ぶことが 3 歳未満の子どもに対する教育方針であった。

以上のことから、学校教育における造形活動の前段階ではどのような教育内容が行われているのか、国内の自由ヴァルドルフ学校ではどのような造形活動に取り組まれているのかについて明らかにすることができた。これらの内容は、2020 年の美術科教育学会第 42 回千葉大会の「千葉大会研究発表予稿集」および、2021 年美術科教育学会第 43 回愛媛大会で「ヴァルドルフ子ども園における造形活動の実践」というテーマで研究発表を行った。また、発表内容を 2021 年『美術教育学』第 42 号において論文として発表した。

(2) 海外における自由ヴァルドルフ学校の動向

2019 年は世界各国の自由ヴァルドルフ学校の様子を学校のホームページや、その教育内容を紹介した雑誌等、公開されている情報をもとに、各国の独自性がどの程度教育内容に取り入れられているのかの予備調査を行った。そして、2020 年には、ドイツを中心として、連盟の定めたリストに掲載されている欧州の自由ヴァルドルフ学校を訪問し、国や地域ごとの造形活動の内容やカリキュラムの相違の有無を調査した。特に着目したのは、自由ヴァルドルフ学校で 5、6 年生以上の子どもが美術を専門的に学ぶ手作業科の授業である。各学年でどのような材料を使い、何を作る授業をどのような目的で行っているのかを明らかにした。

報告者が管見した限り、ドイツ国内の自由ヴァルドルフ学校間よりも、国外、さらには欧州とは大きく文化的な背景が異なる東アジア地域の自由ヴァルドルフ学校の方が、地域の特産品や伝統文化や伝統文様などが授業のカリキュラムの中に取り入れられていた。つまり、世界中の自由ヴァルドルフ学校を統括する、自由ヴァルドルフ学校連盟によって世界共通の大まかなカリキュラムは定められているものの、それを各国の教員がその土地の教育へと「つくり変える」こ

とがある程度容認されていることが確認できた。報告者が調査した範囲ではあるが、ドイツ国内の自由ヴァルドルフ学校ではあまり大きくカリキュラムの地域差は見られなかった。しかし、ドイツ国外では、ドイツ国内で取り組まれている造形教育の題材と同じまたは類似した実践も見られた一方で、各国の文化、伝統工芸、歴史などをテーマにした造形活動を確認することができ、各国独自の造形教育の展開のあり様が本研究により明らかになった。

2020年に東アジア地域における造形教育の展開は、『美術教育学』第41巻に、多くの国で共通して取り組まれる木のスプーンをつくる手作業科の題材に関する各国の独自性や指導の工夫については、『民具・民芸からデザインの未来まで～教育の視点から』の中でまとめ、本研究の成果の一部を出版物としてまとめた。

また本研究を行う中で、ルールボーフム大学を訪問し、研究発表を行い、教育に関する研究を行っている現地の教員と院生との意見交換を行い、今後の国際的な共同研究に向けての足掛かりをつくることができた。

(3) 研究の総括

以上の研究により、実地調査を行った国内外いくつかの自由ヴァルドルフ学校における造形教育のカリキュラムと具体的な教育内容を明らかにすることができた。自由ヴァルドルフ学校連盟が作成しているカリキュラムからは、具体的な教育内容について知ることは難しいが、それはシュタイナーの理論と思想を基盤としつつも、各国のヴァルドルフ教育を学んだ教員によって、その国、地域に合わせた教材を開発し、授業が行われているという仮説を得ることができた。しかしながら、各国のヴァルドルフ教育の根底には、もちろんシュタイナーの理論と思想があり、それは他国の教員をオブザーバー、アドバイザーとして招き教師教育にも力を入れることでヴァルドルフ教育の枠外に出ないように教師が内省しながらの教材開発が行われている。つまり、100周年を迎えたヴァルドルフ教育は、同じ教育を行い続けてきたということでは決してなく、時代や国、地域に合わせて変化し続けているということである。それが、ドイツを発祥とするヴァルドルフ教育が、100年にわたり、世界的に展開してきた理由であり、この学校教育の独自性と捉えることができる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 吉田 奈穂子	4. 巻 41
2. 論文標題 東アジアのシュタイナー学校における造形教育の展開	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 美術教育学	6. 最初と最後の頁 353-364
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 吉田 奈穂子	4. 巻 111
2. 論文標題 シュタイナー学校における造形教育の意義 学校法人シュタイナー学園の実践に着目してー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 研究論集	6. 最初と最後の頁 233-250
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田 奈穂子	4. 巻 42
2. 論文標題 NPO法人うめの森ヴァルドルフ子ども園における造形活動の特質ーにじみ絵の実践に着目してー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 美術教育学	6. 最初と最後の頁 331-343
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 吉田 奈穂子
2. 発表標題 「ヴァルドルフ子ども園」における造形活動の実際
3. 学会等名 美術科教育学会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 吉田 奈穂子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 NSK出版	5. 総ページ数 111
3. 書名 シュタイナー学校における造形教育の実践 日本の公立小学校の図画工作科への導入をさぐる	

1. 著者名 吉田 奈穂子 (宮脇理 監/畑山未央、佐藤昌彦編)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 学術研究出版	5. 総ページ数 382 (pp.287-296)
3. 書名 民具・民芸からデザインの未来まで～教育の視点から	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>ルールボーフム大学における研究交流会に関する大学の記事 "Gast aus Japan am IfE" 【https://ife.rub.de/】</p>
--

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------